

古代史教養講座 創立1995

松戸市常盤平 2-18-9

〒270-2261 電話 (047)384-5728 <http://www.geocities.jp/kdil1995>

振込銀行口座 三井住友銀行 飯田橋支店 普通預金 6355550 口座名・古代史教養講座

当会ゼミは3月も休講（当号は2頁）

活発なオミクロン株が2月にピークを迎えるが、3月も継続すると予想されるので、3月も休講とします。

台湾の歴史(略史)**外来政権の支配と抵抗の400年：清野敬三会員記**
◇はじめに◇

台湾が中国の版図に入ったのは、近々17世紀の清朝の時代である。それまでは所謂「無主の地」であった。ここ400年の間に、台湾は次々に外来政権の支配を受けた。台湾の歴史は、外来政権による抑圧と住民の抵抗の歴史である。現在は、李登輝総統誕生以来、ようやく民主化が進み独自の政権が生まれ、経済的にも驚異的な発展を遂げている。

ところで、中国共産党政権は、従来から虎視眈々と台湾の併呑を狙い、そのタイミングを窺っている。併合されれば、香港と同じ運命を辿ることは目に見えている。台湾は、再び外来政権による圧政と抵抗の歴史を辿るのであろうか。しかも、事が起これば日本への影響は免れない。直面する切実な課題である。

◇16世紀以前◇

16世紀以前の台湾には、現在高山族と平埔族と称される原住民が住んでいた。オーストロネシア語族に属し、古くは大陸南部から渡ってきたとみられている。多民族に分かれていたため、統一した政権や王権は樹立せず、少数民族となっている。

古文獻では、『隋書』の「流求国」や、『後漢書』の「夷州」が台湾を指すとされる。中国の版図に編入された時期について、澎湖諸島は14世紀末の元代に福建省に隸属し巡検使が置かれていたが、台湾は中国に属しておらず、17世紀の清代に正式に中国の版図に入ったとみてよい。

◇オランダ統治時代◇ 1624～1662

大航海時代の16世紀初頭、ポルトガル人が台湾の島影を遠望し「Ilha Formosa(麗しき島)」と叫んだ伝承から、Formosaが台湾の別称となった。アジア進出に遅れをとったオランダは東インド会社を設立後、1622年貿易拠点として澎湖諸島を占領した。明朝と攻防戦の末、澎湖島からの撤退を条件に、オランダの台湾占領を認める停戦協定が1624年に成立した。もともと明朝は台湾を領土としていなかったため、オランダにとっては好条件であった。台湾の領有を確認できる史上初めての勢力は、このオランダである。

オランダは、安平にゼーランジャ城、台南にプロビンシャ城を築いて台湾を支配し、バタビア・日本・中国の中継貿易で莫大な利益をあげた。全土地を会社所有とし、大陸沿岸部から大量の漢人を移住させ、特に砂糖産業を育成した。鹿の皮・肉も主な輸出品であったが乱獲により絶滅した。オランダは移住民に重税をかけ、それに抵抗した「郭懷一の蜂起」が1652年に起きている。

「濱田弥兵衛事件」が起きたのはこの時代である。朱印船の船長弥兵衛は、出合貿易にオランダが新たに關稅をかけたのを拒否。1628年(寛永5)台湾総督ノイツを拘束し、オランダから譲歩を勝ち取った。なお、この事件は、戦前は教科書にも載り誰もが知っていたが、GHQの言論統制により禁書とされたため、最近では弥兵衛の名前も知らない世代が増えている。

◇鄭成功政権時代◇ 1662～1683

1644年、李自成の乱により明朝が滅亡し、満州族の清が進出し中国を支配した。これに対し、鄭成功が「反清復明」を掲げ、清朝への反攻の拠点とするため、1662年台湾からオランダ勢力を駆逐した。

鄭成功は台湾攻略後1年足らずで死亡し、その後は鄭氏一族が台湾を統治した。清朝統治を嫌った大陸からの移住民が増加し、農地の開発が進んだ。鄭成功は台湾開拓の功績により「開山王」と称される。一方、対清作戦のため徴税が過酷で、可斂誅求の圧政と内紛の頻発により島内は疲弊した。1683年、清朝は台湾を謀略で無血占領し、鄭氏政権は20年余で滅亡した。

鄭成功は、中国人の貿易商鄭芝龍を父、日本人田川マツを母として平戸で生まれた。明の復興を図り、明朝の国姓朱を賜り国姓爺鄭成功を名乗った。その活躍は、近松門左衛門の人形浄瑠璃『国性爺合戦』により、当時から日本でも親しまれている。

◇清朝統治時代◇ 1683～1895

清朝は、台湾を福建省の統治下に編入したが、もともと領有・経営に消極的で「化外の地」としていた。住民の反乱防止を基本政策とし、開発を制限し渡航も制限したが対岸の大陸から多くの漢民族が移住し開発地を拡大していった。清朝から派遣の官吏の汚職・賄賂が横行し、貧官汚吏への不満から武力抗争や騒擾事件が頻発した。特に移住民による秘密結社「天地会」の抵

抗が顕著であったが、^{ぶんるいけいとう}分類械闘という出身地の対立から内部抗争による自滅が多かった。

1874年(明治7)、日本の台湾出兵が起こった(牡丹社事件)。台湾近海で遭難した宮古島島民が原住民により殺害され、日本政府は清朝に嚴重に抗議した。しかし清朝は、原住民を「化外の民」として責任を回避したため、日本は当地を占領した。北京での交渉の結果、日本出兵の正当性を認めさせ、清国が50万両^{テール}支払うことで決着した。

◇日本統治時代◇ 1895～1945

1895年(明治28)、日清戦争後の下関条約により台湾と澎湖諸島が日本に割譲された。日本の占領に当たり、これに反対する漢人が台湾民主国の独立を宣言し乙未戦争に発展した。しかし、期待した諸外国の承認が得られず、指導者がいち早く大陸に逃亡してしまい、台湾民主国は崩壊した。

日本統治時代の最大の抗日事件は、1915年(大正4)の西来庵事件(タバニー事件)である。漢人系台湾人による大規模武装蜂起で、余清芳らが台南市の廟西来庵で布教の傍ら蜂起を画策し、激しい攻防戦が展開された。2000名近くが逮捕され、866名が死刑判決、うち95名が執行された。その他、1930年(昭和5)には、山地原住民による霧社事件が、台中州霧社で起きている。日本は統治にあたり、初期段階は徹底したアメとムチの併用した強硬策をとり、順次、内地延長主義による漸進同化政策に変えていき、後期には日本人化を進める皇民化政策を進めている。

台湾が本格的に開発されたのはこの時代からと云ってよく、灌漑・上下水道・港湾・鉄道・道路通信等のインフラの整備を推進した。なお、^{うざんとう}烏山頭ダムと用水路を建設した土木技師八田與一は、現在でも地元民に感謝され、慰霊が行われている。

◇南京国民党政府◇ 1945～1948

1945年、日本の敗戦により、蒋介石の中華民国・南京国民政府軍が、陳儀を総指令として進駐して来た。進駐軍の質が悪く、上陸とともに治安が乱れ婦女暴行や強盗事件が頻発した。しかも、行政公所の要職は新来の外省人が独占し私利私欲に走った。

1947年2月28日、本省人(台湾人)がこれに反発し「二・二八事件」が起きた。陳儀は本省人の要求を一旦は受け容れたが、密かに大陸から援軍を呼び入れ、本省人の知識層を中心に無差別に逮捕・投獄・拷問をし、多くは殺害された。事件後、政治活動・言論の自由は厳しく制限され、その後も「二・二八事件」は書くことも語ることも禁止された。知識人が標的にされ、李登輝は知人宅に身を隠し、学生運動のリーダーだった邱永漢は日本へ亡命している。

この事件は、政府による虐殺と粛清の白色テロであり、

本省人と外省人の対立の原点となった。犠牲者の数は膨大で数万人とも云われるが、後日の公表では2万8千人とされる。台湾人は「犬去り、豚来る」と嘆いた。「犬(日本人)はうるさく吠えても、番犬として役立つが、豚(中国人)は貪欲で汚く、食うだけ」の意である。

◇蒋介石の中華民国政府◇ 1949～1988

1949年、蒋介石の国民党政権が国共内戦に敗れ、台湾に移転して来た。蒋介石は戒厳令を布き、集会・結社・報道を制限した。総統に独裁権を付与し、大陸選出議員の地位を恒久化し(万年議員)、本省人の国政参与権を剥奪した。

1950年、大陸の共産党は台湾侵攻を目指して金門・馬祖島を攻撃し、米国は「台湾海峡不介入」を声明、台湾は危機に陥った。しかし、同年朝鮮戦争の勃発により一転、米国は「台湾海峡中立化」を宣言し、中国軍の台湾侵攻は阻止された。台湾は、反共を旗印に国内の権力を固め、体制づくりに専念できることになった。

1971年、米キッシンジャーが秘密訪中し「米中共同コミュニケ」を発表、北京が国連代表になり、台湾は国連から追放された。台湾は自立を目指し、一党独裁で経済再建を最優先とした。農地改革を基本に据え、インフラの整備と重工業化を目的とする「十大建設」を実施し、軽工業から重工業へ、ハイテク化へと、奇跡的な経済の高度成長を遂げた。

1978年、国民党主席蔣経国が総統に就任し、国家元首になった。美麗島事件など思想弾圧事件が頻発したが、民主化運動も活発になり、1987年、米国の圧力もあり38年間続いた戒厳令がようやく解除された。

◇李登輝総統以降◇ 1988～現在

1988年、蔣経国の死亡により、本省人の副総統李登輝が総統に就き、翌年国民党主席に選出された。李登輝は、国民党政権の権力構造である党・政・軍・特(秘密治安情報機関)のトップ人事を徐々に刷新し、李登輝体制を確立していった。万年議員の退職条例可決や、^{かんらん}動員戡乱時期臨時條款を廃止して、台湾の非常時体制を解除し、民主化改革を急速に推進した。

1996年、総統の直接選挙が初めて実施され、李登輝が当選した。その後、2000年に民進党陳水扁、2008年に国民党馬英九、2016年には民進党蔡英文が総統に選出され、ようやく台湾人による政府が根付き、現在に至っている。

◇おわりに◇

2021年7月、中国共産党創立100周年記念で習近平は次のように演説した。「台湾の完全統一は党の歴史的任務である」。10月の辛亥革命110年記念演説でも「台湾統一は必ず実現する」と強調した。さらに台湾周辺で艦船や航空機での示威運動を繰り返している。

では、中国がとる手段は何か。正面からの武力侵攻か。内部のクーデターや選挙による政権の奪取もあり得る。このような事態に、わが国はどのように対処すべきか。喫緊の問題である。以上